



セーフコミュニティとは

セーフコミュニティ(SC)とは、WHO(世界保健機関)が推奨する「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という理念に基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体が協働で進める安全安心なまちづくりの取り組みです。

亀岡市では、市内で発生しているけがや事故の現状及び課題などから、自殺対策、高齢者の安全、交通安全、防犯対策、余暇・スポーツの安全、乳幼児の安全、学校の安全の7つの対策委員会を設置し、市民の皆さんとともに安全・安心なまちづくりを進めています。

オリジナルの反射材を作ろう！

「反射材配布モデル地区事業」を実施しています

亀岡市は幼少期から高齢期まで反射材を普及する京都府警の「反射材配布モデル地区」に指定されています。

その中で交通安全対策委員会では、夜間の交通事故からかけがえのない命を守るため、幼少期から反射材を身に付ける習慣をつけてもらおうと、放課後児童会の協力を得て、各小学校でオリジナル反射材を作るワークショップを亀岡警察署と協働で開催しました。

子どもたちはカバンや傘など思い思いの持ち物に反射塗料を塗り、可愛い反射材を作りました。参加した多くの子どもたちは「面白かった」という感想を述べていました。



新委員による亀岡市セーフコミュニティ推進協議会を開催

市民参加型のセーフコミュニティ活動を目指す

1月31日に、亀岡市役所市民ホールで「亀岡市セーフコミュニティ推進協議会(会長:桂川亀岡市長)」を開催しました。

委員任期満了に伴う委員改選委嘱状交付(任期2年)を行い、平成30年のセーフコミュニティ再々認証に向けて、決意を新たに新委員34名での活動を開始しました。

会議では、セーフコミュニティ活動を市民の方に知ってもらうだけでなく、より多くの方に参加してもらう方法などについて、議論が交わされました。



府民協働防犯ステーション広域ネットワーク会議

地域の安全・安心は地域の連携で守る

2月3日に、亀岡市役所市民ホールで亀岡警察署主催による「府民協働防犯ステーション広域ネットワーク会議」が開催されました。

「府民協働防犯ステーション」とは、府民の皆さんとともに、地域の安心・安全に関わる様々な団体が、交番・駐在所等を核に、警察・行政と連携し、地域の実情に応じた防犯活動等に取り組むネットワークのことです。

今回の会議では、ステーション活動をより活発化させるために、来年度に何に取り組むかについて議論され、各ステーションが様々なアイデアを出し合いました。



特殊詐欺が多発しています！

亀岡市内で**警察官**や**息子など親族**を名乗る特殊詐欺が多発しています。警察や銀行がお金を要求することは、**絶対にありません！**

家族にお金を要求されたら、**必ず他の家族に相談しましょう。** お金やキャッシュカードを他人に渡すのは絶対にやめましょう。

※平成28年は京都府内で166件約7億4千万円(暫定値)の被害が発生しています。被害者の内訳は男性52人、女性114人で、その内が115人(約7割)でした。



認知症等高齢者の事前登録制度

行方不明を防止するために

亀岡市では、認知症などにより、徘徊のおそれのある人の名前・住所・連絡先・写真などを事前に登録することで、実際に行方不明になった時に、登録した情報を迅速に関係機関へ提供して早期発見に役立てるため、事前登録制度を実施しています。

問 亀岡市健康福祉部高齢福祉課高齢者係
電話 0771-25-5032

セーフコミュニティ応援隊を募集しています

受付フォーム→



セーフコミュニティ活動を応援していただく方を募集しています。

希望される方は、下記連絡先もしくは右上QRコードから登録してください。希望された方に対しては、「セーフコミュニティニュース」などを送らせていただきます。

インターナショナルセーフスクール

安全で安心な学校・保育所・保育園づくり

セーフスクールとは

体と心のケガやその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全な学校や保育所づくりを進める活動がインターナショナル・セーフスクール(ISS)です。

亀岡市立曾我部小学校、社会福祉法人^{ほうじょうかい}倣襄会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院、保津)がISS認証を取得し、現在も取り組みを進めています。

「ふわふわことば」で、ともだちを大切に！

かるたを使って楽しく学ぶ

東部保育所では、こころのISS活動として、嬉しい気持ちになる言葉を園児が考え、「やさしいね」「友だちだよ」などの「ふわふわことば」を集めた「ふわふわことばかるた」を作成しました。3歳から5歳児のいる全ての家庭に配布し、家庭にも「ふわふわことば」を広げています。

また保育所では、そのかるたを大きくして、大型かるた取り遊びを楽しんでいます。

「ふわふわことばかるた」を使った遊びを通して、「友だちを大切にすること」と「コミュニケーション能力」を養っています。



「お茶ごっこ」で体とこころを育てよう

本格的にお茶を学ぶ初釜体験

東本梅保育所では、5歳児の子どもたちがお茶を点て、4歳児以下の子どもたちにお茶を振る舞う「お茶ごっこ」に毎月取り組んでいます。「お茶ごっこ」を通して、体幹育てと落ち着いて過ごし相手を思いやる心を育てています。

1月30日には、日ごろの活動の成果を保護者の皆さんに披露する初釜体験の会が開催されました。

長時間に渡る会となりましたが、園児たちは落ち着いて正座で待つことができ、1年間の成長を感じることができました。



朝から元気に「あいさつ運動」

自分からあいさつできる子になろう！

第六保育所では、今年度は特にともだちを思いやる「こころ育て」に力を入れています。その中で5歳児が朝玄関先に立って元気にあいさつをする「あいさつ運動」に取り組んでいます。

最初はひとりでは言えなかったあいさつも、ともだちと一緒に大きな声であいさつできるようになり、保護者の皆さんも丁寧にあいさつを返して下さっています。

また4歳児以下のクラスを回り、そこでもあいさつをすることによって、園児たちの交流が生まれています。



ISS避難訓練

自分で避難経路を考え、迅速かつ安全に避難しよう

1月26日に曾我部小学校で、ISS避難訓練が実施されました。

今回の避難訓練は、中間休みに大地震が起こったという想定で、子どもたち自身が安全な経路を考え避難することを目標に設定されました。

「廊下に物が散乱し通れない」「ガラスが割れて飛散している」などの仕掛け(ダンボール製)が校舎内に設置され、子どもたちは非常階段を使うなど自分で考え工夫して避難していました。



大切な命 チャイルドシートで守りましょう

子どもを交通事故から守るために

川東保育所では毎月1日を“ISSの日”とし、交通安全についての情報を伝えています。

2月は亀岡警察署と協力し、『車に乗ったらチャイルドシート カッチン!』を合言葉に、送迎時にチャイルドシート装着を呼びかけました。保護者からは、「いつも座っています。」「嫌がるけれど、チャイルドシートに座るまで車は動かしません。」などの感想があり、保護者の意識も高まりました。

